

分かりやすい薄板の構造設計 初版正誤表

まえがき 3行目

誤 「分かりやすい技術紹介として」掲載された…

正 「分かりやすい技術紹介」として掲載された…

p 15 式(1-18)

誤

$$\sigma_{cr}^* = \frac{1}{3.6} \lambda^{*2} + 1$$

正

$$\sigma_{cr}^* = -\frac{1}{3.6} \lambda^{*2} + 1$$

P86 13行目

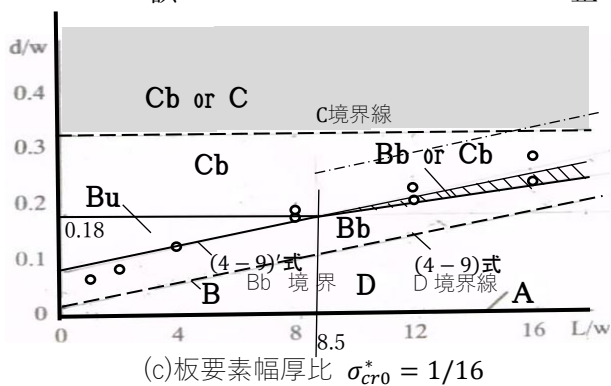
誤 …となります。(4-10)式の λ^* を第1章の(1-18)式に代入すれば

正 …となります。第1章の(1-18)式に**対応して**

p89 図-4.15

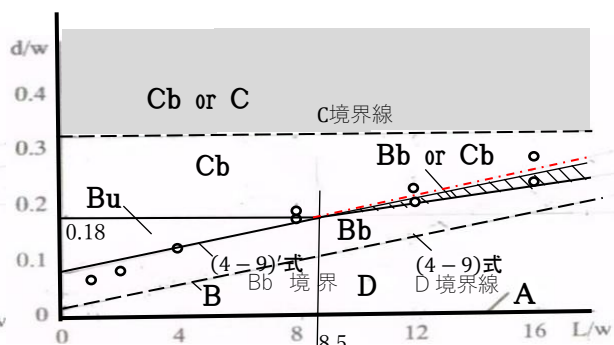
誤

正



(c)板要素幅厚比 $\sigma_{cr0}^* = 1/16$

図-4.15 モード領域



(c)板要素幅厚比 $\sigma_{cr0}^* = 1/16$

図-4.15 モード領域

P95 下9行目 **2版に追記**

【注 4.2】 材料の弾性限界を $\alpha\sigma_y$ とした時の諸耐力式^(4.5)

比例応力度を $\alpha\sigma_y^*$ とすれば、弾塑性座屈耐力 σ_{cr}^* はパラボラ近似により次式となります。

$$\sigma_{cr}^* = 1 + (\alpha - 1)(\lambda^*/\lambda_e^*)^2 \quad (T4-1)$$

ここに λ_e^* は弾性限界幅厚比で、次式で表されます。

$$\lambda_e^* = \sqrt{0.9/\alpha} \quad (T4-2)$$

又座屈後耐力 σ_u^* は塑性限界幅厚比を λ_p^* とすれば、次式となります。

$$\sigma_u^* = \lambda_p^*/\lambda^* \quad (T4-3)$$

$$\lambda_p^* = \frac{3\alpha - 1}{2\alpha} \lambda_e^*$$

(T4-4)

アルミニウム合金では $\alpha = 0.5$ 、鋼材では $\alpha = 0.6$ を代入します。

P131 下7行目

誤 表-1 参照

正 表-5.1 参照

P175 (6-49)'式

$$\begin{array}{ccc} \text{誤} & k' = \frac{\frac{4}{3}\left(4 + \frac{3}{\beta^2}\right)}{[1 + (4.33 + 3/\beta^2)]\eta V} & \text{正} & k' = \frac{\frac{4}{3}\left(4 + \frac{3}{\beta^2}\right)}{1 + [4.33 + 3/\beta^2]\eta V} \end{array}$$

P196 図 7.6 (d) (e) (f)

誤 (d)HP3 試験体(W) (e)HP3 試験体(W) (f)HP3 試験体(W)

正 (d)HP4 試験体(W) (e)HP5 試験体(W) (f)HP6 試験体(W)